



新館長ごあいさつ 館長 加藤 泰生

令和2年4月より、館長に就任いたしました加藤です。山根前館長の後を受け、まちなか環境学習館の活動のさらなる活性化をはかり、本施設の認知度、利用度をより増やすべく、関係各位との連携を密に図りながら、“見える化(可視化)”された活動へと取り組んでいきたいと考えます。

そもそも、2年前まで36年という長き間、山口大学での教育者としての経験は、ある種、(私的には)凝り固まった思考の色合いが強く、この教育経験がどの程度、環境教育活動全般に生かせるのかを推し量りながら臨機応変(アメイバー的)に努めたいと考えます。教育活動を通じて、ESD(持続可能な発展のための教育)活動を支えつつ、生きる力を持つ宇部地区の子供たち、若い人たちの健全育成に少しでも寄与できればと願っています。さらには、宇部市が指定都市となって目指すSDGs(持続可能な開発目標)活動を地域の人たちとの連携のもと、展開推進し、あわよくば、Win-Winの結果が得られればと考えています。町おこしと社会人教育、そしてSDGsに資するための人材育成が館長主導の使命と考え、この施設並びに職員の助けを借りて環境教育活動に努力したいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。



私と桜(昨年撮影。この春はコロナ禍とプライベート禍で桜をめでる機会は叶わず。)



これは昨年の常盤公園北口近くの広場の桜です。

新たに加わった4名の職員からご挨拶申し上げます



松尾 秀則(まつお ひでのり)

4月1日付で、まちなか環境学習館「銀天エコプラザ」の一員となりました、松尾と申します。皆様は、「銀天エコプラザ」って何をしている所かご存知ですか…?ご存知ない方が多いのでは…。私は「銀天エコプラザ」の役割を、多くの方に知って頂ける様、努力していきたいと思っています。現場用務に不慣れな私ですが、ご指南いただきますようお願いいたします。

山本 和毅(やまもと かずき)

新任の山本和毅(かずき)です。今回、市の環境学習の拠点の一つである当館で仕事ができることを大変うれしく思っています。学習室の利用促進にとどまらずSDGs学習支援としてブックコーナーの更なる活用及び環境学習の場の案内等を積極的に行っていきたくです。私も学生さんに負けず勉強します。よろしくお願いいたします。

柳 洋平(やなぎ ようへい)

この度まちなか環境学習館の一員として働かせていただくことになりました、山口大学大学院所属の柳と申します。学習室を利用してくださる若い皆様に環境問題について少しでも関心を持っていただき、ESD研修会や、おそうじ隊といった活動に参加していただけるように微力ながら精進する所存です。どうぞ宜しくお願い致します。

山本 裕子(やまもと ゆうこ)

4月からまちなか環境学習館の一員に加わりました。生まれも育ちも北海道で、札幌から宇部に引っ越してからまだ一年程度ですが、宇部の方々の優しさに助けられ居心地の良さを感じております。環境工学が専門で、これまで河川の水質調査などを行っていました。今後環境教育などで少しでも貢献できたらと思っております。お気軽にお声がけください。

宇部市まちなか環境学習館 銀天エコプラザ

〒755-0045 山口県宇部市中央町二丁目11番21号
交通手段 JR宇部線:「宇部新川駅」徒歩7分
宇部市営バス:「宇部中央バス停」徒歩3分
駐車場 無し(近隣の有料駐車場等をご利用ください)
TEL/FAX 0836-39-8110 E-mail ubekuru@gmail.com
開館時間 9時~21時 HPアドレス <http://ubekuru.com/>
休館日 毎週火曜日、年末年始(12月29日~1月3日)



HomePage



facebook



twitter



「環境衛生連合会厚南支部 事業および活動報告」
支部長 長谷川忠重

1. 歴史背景

昭和16年厚狹郡厚南村が宇部市と編入合併し、緑豊かな田園の厚南地区となる。当時の所帯数は2,388所帯、人口は11,442人だった。戦後人口増加により昭和25年に厚南支所、原出張所が設置され、学校区も厚南校区、原校区となる。小学校も新設され、その後の人口増加に伴い平成6年厚南校区を3分割し、厚南校区、西宇部校区、黒石校区となる。厚南は中川、明神川、御撫育等、海拔0mの水害に弱い地域が過半数を占めて、特に河川清掃には4校区が力を合わせ取り組んでいる。

2. 地域の概要と人口予測（厚南校区）

面積：3.65 km²、自治会数：14自治会、世帯数：4,650世帯、人口：10,500人

3. 活動目標

- (1) 安心、安全な住みよい街づくりを目指して防災防犯をはじめ環境美化活動に取り組み、ごみの不法投棄・ごみの分別・ごみの減量化及びリサイクル運動に努める。
- (2) 生活雑排水の浄化・中川・明神川、中小河川をきれいにする運動を推進する。

4. 環境対策事業及び活動状況

3Rの推進及び啓発活動として、ごみの分別・生ごみの水切りにより燃やせるごみの減量、段ボールコンポストの取り組みによる生ごみの減少化、燃やせないごみやプラごみ等の立哨を行っています。清掃活動については平成15年10月、中川をきれいにする会を立ち上げ、中川土手や水路の清掃を年1回4校区一斉の中川清掃作業として、中学生や高校生を含め総勢550人余りで行っています。厚南校区では200人以上で参加し、草刈り機や車を出し、刈り取った草を一か所に集めます。この他、厚南13自治会では年1、2回は水路の清掃及び毎年2回各自治会の草刈りをしており、また、ごみ置き場の管理清掃、年2回の空き缶拾いをしています。また通学路等の花壇の手入れのボランティアをしたり、8月末の夏休み終了前に小学校PTAとともに学校の草刈りと清掃をして、新学期に気持ちよく勉学に励んでもらうため、コミュニティーの皆さんとともに頑張っています。



中川一斉清掃

うべ環境コミュニティー会員 ほっと コラム

新型コロナウイルス予防HOME STAYをバネに
前向き指向 Positive Thinking
“こどもの日企画” 「1000kmオンライン・プレーパーク」 つくりんたっち

◆ 自主・共創を学ぶプレーパーク

こどもが、自分で世界とつながること、家庭、社会、自然、人や生きものの無限に広がる世界に興味を持ち、知ろうとすること、じぶんで課題を見つけ、つくり、試すこと、自分たちで助け合い乗り越えようとする力を育てることが重要です。しかし、満たされた社会では、困難になっているのではないのでしょうか？そこで、2018～19年度の間、その実現を目指す環境「プレーパーク」を、教・工・医など多分野の専門家と市民により宇部市の街区公園で、実施提案し、のべ数千人が参加してくれるようになりました。ところが、コロナSTAY HOMEでは、じぶんで世界と繋がるはずの成育環境に、少なからず制約を生み、実際、プレーパークに来て下さった親子の「つらい」という言葉を耳にしました。

◆ ICT-「道具をつかう知性」の問い

スマートフォンやPC、ゲーム端末などのICTは、こどもを夢中にさせ、外や自然の世界から遠ざけるリスクや、多様な危険を生む存在でもあります。いっぽう、ICTは、家のなかにいるこどもに、外の世界・自然・人や生きものとの繋がりを拡張し導く可能性があると考え、探索しています。

★★★ “こどもの日企画” 「1000kmオンライン・プレーパーク」 つくりんたっち (図)

そこで、宇部市・高専・大学の授業、Technology×Art受講生らとビデオ音声ICTを活用し、こどもがじぶんで世界とつながる新しいシステムのカタチを探ることに

しました。2020年こどもの日13～15時に、プレーパーク参加の3家族と、千葉・埼玉4家族のこども&保護者、市民スタッフ計30名の参加を迎え、こどもが、じぶんで遊びを提案、遠距離を越え全員一緒に遊ぶ“こどもの日企画” 「1000kmオンライン・プレーパーク」を試みました。すると、こどもたちが、予想を遥かに超え多様な遊びを生み始めたのです。保護者のみなさんからすすきなアイデアが生まれました[*]。次世代が生んだ創造の世界は、地球規模の大きな視野を育みました。リーチとリスクを見守りながら、親子・市民と世界が繋がる、オンライン・プレーパーク「つくりんたっち（つくる+in touch(つながる))」プロジェクトを始めようとしています。

* http://www.children-env.org/magazine/blogs/blog-entries/view/23/1b0acc3cb66ee611aeafb3ef5ace0600?frame_id=37



15名のこどもや保護者が、1000kmを越え、いっしょに、家中走り回って遊んだり、庭の自然素材を使う遊びなど、情報交換しながら遊びを創り出しました。ロボットで仮想と現実空間を繋ぐ次世代遊具の大学提案にも、こどもたちが興味をもってくれました。

図 コロナHOME STAYのこどもの日に行ったオンライン・プレーパーク「つくりんたっち」